

理事長 寶 馨 たから かおる

令 和元年(2019年)から整備が進められてきた南海トラフ海底地震津波観測網「N-net」は、室戸ジオパーク陸上局と串間陸上局を結び、2025年6月に整備が無事完了いたしました。秋からは本格運用に入ります。

6月8日には室戸で、14日には串間で陸上局の完成記念式典を執り行いました。室戸の式典には、室戸市長 植田壮一郎様、高知県危機管理部長 江淵誠様、高知県漁業協同組合参事 柳原栄二様、三津大敷株式会社事務長 山本幸生様、また、串間の式典には、宮崎県知事 河野俊嗣様、串間市長 島田俊光様、串間市東漁業協同組合代表理事組合長 門田國光様に臨席賜りました。皆さまには、長年にわたるご支援とご協力に感謝の意を込めて、感謝状を贈呈いたしました。この場をお借りして、改めて心よりお礼申し上げます。

また、N-netの開発・整備にあたっては多くの企業にご参画いただきました。中でも、日本電気株式会社、NECネットエスアイ株式会社、株式会社OCC、横河電機株式会社、白山工業株式会社、NECプラットフォームズ株式会社、KDDIケーブルシップ株式会社の各社におかれては特に大きな貢献をいただいたことから、7月29日に都

内で開催した完成記念シンポジウムにおいて感謝状を贈呈いたしました。関係各社の皆さまに、深く感謝申し上げます。

本号は、このN-netに関する特集をご紹介します。N-netの整備に係る技術的側面はもとより、実際にN-netが捉えた観測データの紹介や利活用への期待など多岐にわたる内容となっています。

本号に原稿を寄せている防災科研の職員をはじめ、プロジェクトに関わった多くの職員が、多大な努力を重ねてまいりました。2023年度および2024年度の10月から3月に実施した海洋敷設工事では、数名の職員が交代で長期間にわたる船上生活を送りながら任務に従事しました。これに関係職員およびご家族らの労をねぎらうとともに、深く謝意を表します。

N-netの整備により、南海トラフ沿いの海底地震津波観測網の空白域が解消され、これまでより最大20秒程度早く地震が検知でき、津波は最大20分程度早く直接検知できるようになりました。このリードタイムにより、多くの人命や資産・暮らしが守られるものと確信いたします。

詳しくは、本号の各記事をご参照ください。

